

Interview

70年の歴史を誇る東京JCの過去の偉業を振り返り、
未来につなげていくための歴代理事長対談の第二弾。
今回は80年代、90年代を知るふたりの歴代理事長の話をお聞きして、
現在の東京JCが進むべき道を探ります。



「時代の先を行く 提言を」

第47代理事長
枝見 太郎 先輩

——今と昔の違いは？
当然ではあるけれど、社会情勢、とくに「経済」の仕組みが変化したことが大きい。昔は、企業のオーナー子息が会社を継ぐ前に「社会を変える」という意識を持って活動する場で、人間として磨かれていった。でも、今の企業は世襲制ではないから、本業で社会を支えることができないようになった人がメンバーになる

社会に求められる 組織であるために

——大きな活動です
いろんな委員会で議論してやるべきことが見えたら、どんな活動していた。東京JCは商工会議所の青年部のような存在になっていったから、社会にインパクトを与える活動をしました。キッシンジャー元国務長官を講演のために呼んだら、首相が会談を申し込んできたり。新聞で取り上げられることも意識して活動していましたね。
——会員も多かったですよ
私の時代の東京JCは、経済



「本音の議論こそ 組織の原動力」

第34代理事長
小島 陽一郎 先輩

提言を世の中に 届かせる組織だ

——35年前に今の社会を予測できていましたよね？
35周年の未来予測は「少子高齢化」「経済の成熟（変化）」「国際化」。そのときは、誰も体験していなかった高齢化社会モデルをスウェーデンに学びに行ったり、政府の行政改革の応援活動を行ったり、様々な活動をしていましたよ。国鉄の民営化にも東京JCは関わっていましたね。

——大きな活動です
いろんな委員会で議論してやるべきことが見えたら、どんな活動していた。東京JCは商工会議所の青年部のような存在になっていったから、社会にインパクトを与える活動をしました。キッシンジャー元国務長官を講演のために呼んだら、首相が会談を申し込んできたり。新聞で取り上げられることも意識して活動していましたね。
——会員も多かったですよ
私の時代の東京JCは、経済

詳しくは
コチラ！



詳しくは
コチラ！

